

中学生の「税についての作文」

大川税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

税金と災害

大川市立大川中学校

三年 西山 奈穂

私が最近、税金を最も身近に感じた出来事は九州北部で起こった大雨災害です。テレビを見てみると、この災害での建物への被害や住民の方々への被害がとても大きいことが分かります。特に朝倉市や東峰村では川が氾濫したり、土砂災害が起こったりなど、多くの死傷者がいるそうです。その光景は映像を通して見てもとても痛々しいものでした。しかしその数日後、災害の様子に代わり映えにうつったのは被害を受けた建物の修復や、自衛隊の方々が被災した人たちを助けている、というものでした。その映像を一緒に見ている父から、

「被害地への支援や行方不明者の捜索や救助には税金が使われているんだよ。」

と、教えてもらいました。私はそれまで、税金が福祉や介護などに使われている、ということは知っていましたが、あまり実感がなくピンときませんでした。でも父の話を聞いて、税金がこんな身近で人の命や生活を救っているんだ、ということに気づきました。今で

はまだ被害が残ってはいるものの、道路や建物の修復などもどんどん進んでいるようです。直接被災地に支援に行ったりしているのは自衛隊や警察の方々ですが、被災地から離れている私たちも税金を通して地元の人たちの役にたっているんだ、と思うと心があたたかくなってきます。税金によって国じゅうの人が幸せになることができる日もくると思います。

ですが、残念ながら、時々「脱税」や「経費の不正」などがニュースになります。そういうことをする人は、自分のことしか考えていなくて他人の気持ちなど関係ない、と思っているんだと思います。そういう人がもし増えていってしまったら、今後このような災害が起こってしまったときにお金が足りず、救えるはずの命を見殺しにしなければいけないかも知れません。自分勝手な人たちによって何の罪もない人たちが被害に合うかもしれません。税金は未来への貯金のようなものではないかと私は思います。今は良くて十年、二十年後がどうなるか分からないような社会に私はなってしまうかもしれません。税金を払うかわりに安心と安全が自分にかえてくるんだから、税金はしっかりと払ってほしいと思います。

そして、将来、税金によって国じゅうの人が幸せになれる日、というのが本当にくればいいな、と思います。

